

---

# 男女共同参画社会に関する住民意識調査

---

## 概 要 版

(平成 17 年 8 月実施)

### 目 次

調査実施の概要	1
調査回答者の属性	2
調査結果の概要	3
1. 男女平等意識について	3
2. 家庭生活について	4
3. 子どもの教育について	5
4. 職業について	7
5. 介護について	12
6. 人権について	14
7. 地域活動について	19
8. 女性の政策決定への参加などシステム変革について	20
9. 区の施策の評価について	22

豊 島 区

# I 調査実施の概要

## 1 調査目的

区民の意識啓発の観点も含め、男女平等・男女共同参画に関する意識調査を実施・分析し、社会変化に即応した施策推進のための基礎資料とする。

## 2 調査設計

- |          |                                 |
|----------|---------------------------------|
| (1) 調査地域 | 豊島区全域                           |
| (2) 調査対象 | 豊島区在住の満 20 歳以上の男女個人             |
| (3) 標本数  | 1,500 人                         |
| (4) 標本抽出 | 住民基本台帳からの無作為抽出                  |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布 郵送回収・はがき催促を 1 回）       |
| (6) 調査期間 | 平成 17 年 8 月 4 日（木）～ 8 月 22 日（月） |
| (7) 調査機関 | 株式会社 ぎょうせい                      |

## 3 調査内容

- (1) 男女平等意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) 子どもの教育について
- (4) 職業について
- (5) 介護について
- (6) 人権について
- (7) 地域活動について
- (8) 女性の政策決定への参加などシステム変革について
- (9) 区の施策の評価について

## 4 回収結果

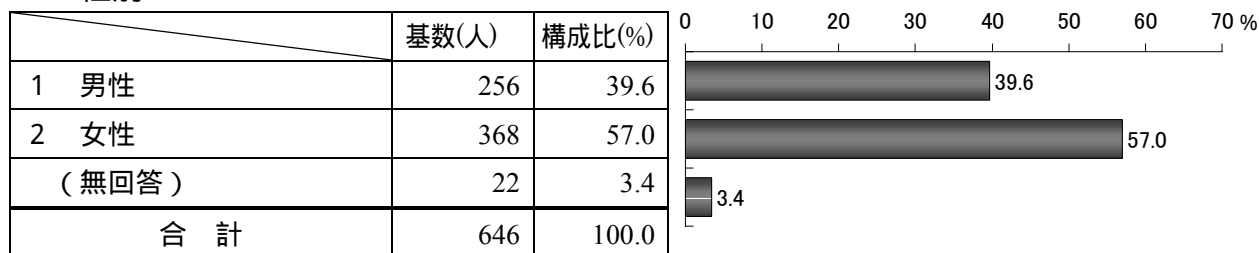
- |           |         |
|-----------|---------|
| (1) 標本数   | 1,500 人 |
| (2) 有効回収数 | 646 人   |
| (3) 有効回収率 | 43.1%   |

## 5 報告書の見方

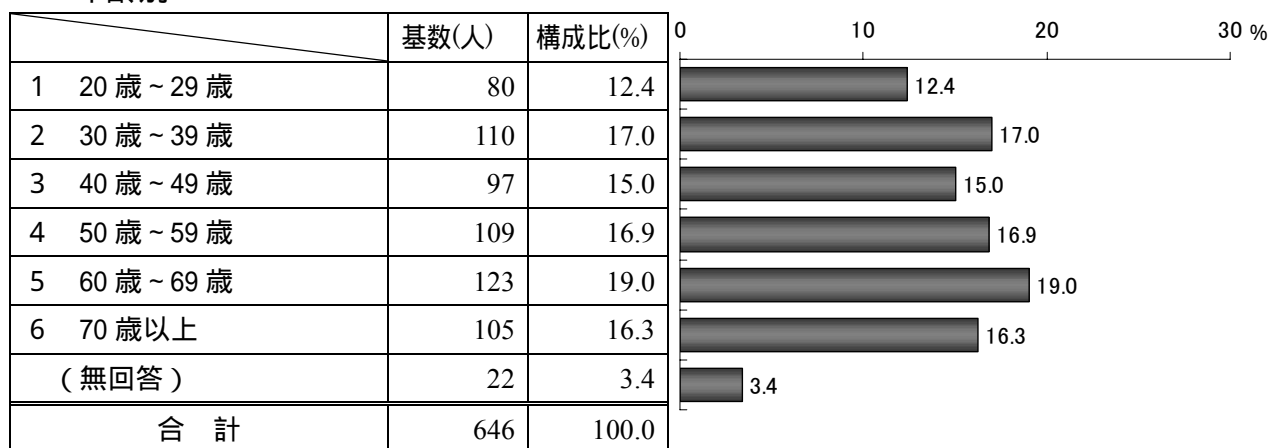
- (1) 図表中の n とは、回答者総数（または該当質問での該当者数）のことである。
- (2) 集計は、小数点第 2 位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が 100.0% ちょうどにならない場合がある。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100.0% を超える場合がある。
- (4) 回答者数の「全体」には属性（性、年齢など）の無回答を含むため、男女別等の属性別の数を合計したものと「全体」の数値が一致しない場合がある。

## II 調査回答者の属性

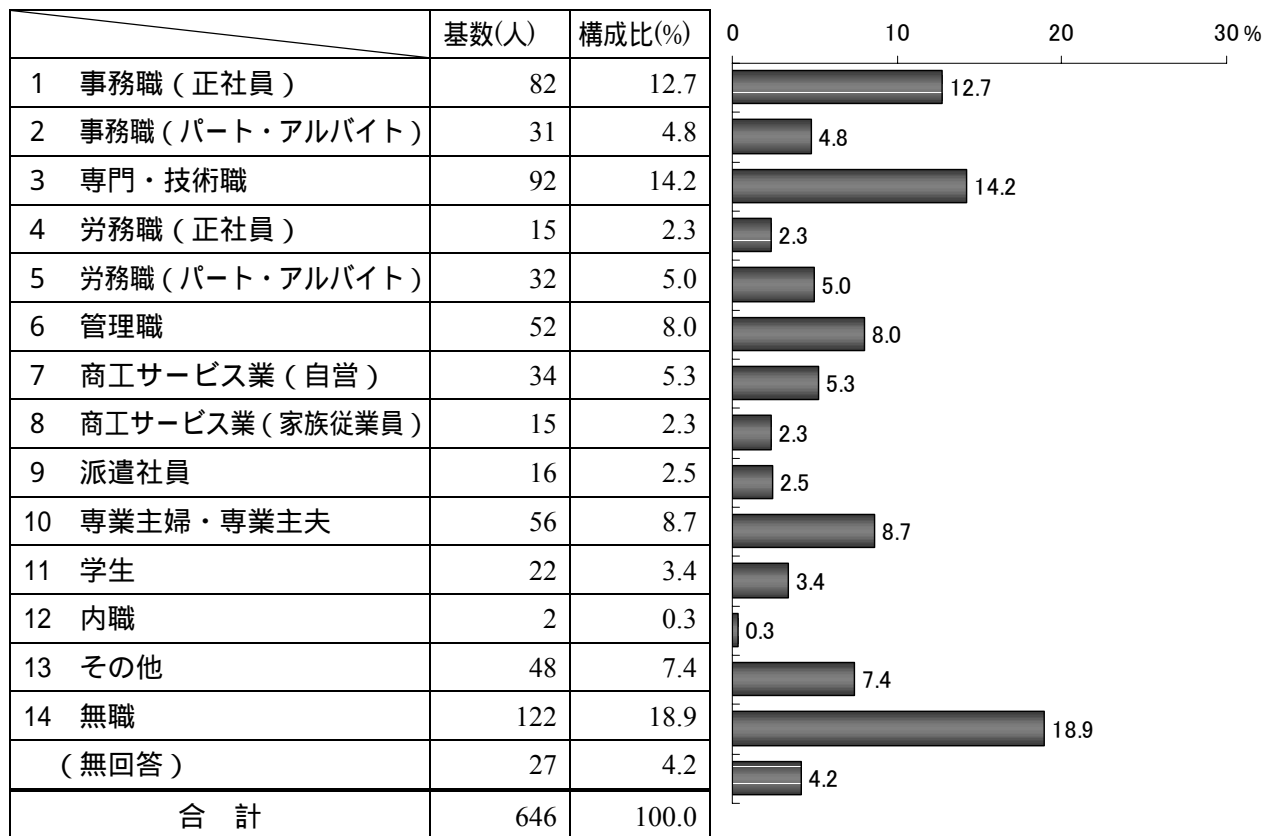
### 1 性別



### 2 年齢別



### 3 就業形態別



### Ⅲ 調査結果の概要

#### 1 男女平等意識について

##### 今の世の中の男女平等の状況

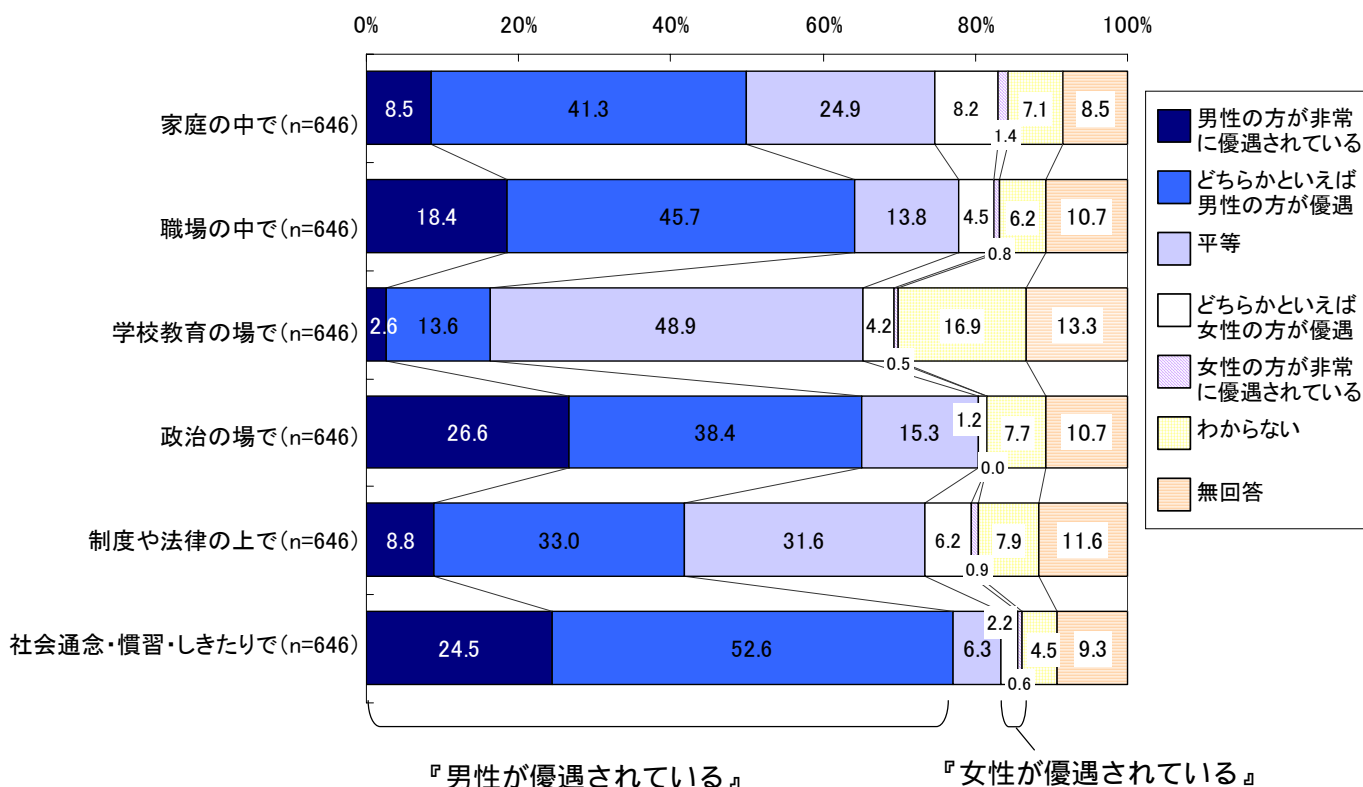
「男女平等になっていない」と「どちらかといえば、男女平等になっていない」を合わせた『男女平等になっていない』が57.3%と6割近くを占めている。また、「男女平等になっている」と「どちらかといえば、男女平等になっている」を合わせた『男女平等になっている』が34.8%であった。

なお、前回調査（平成10年）と、大きな差異はみられない。

##### 各分野の男女平等の実現度

すべての分野で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』の方が高くなっている。なお、「学校教育の場」は、『男性が優遇されている』が他の分野に比べ低く、16.3%であった。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性が優遇されている』は、いずれの分野も1割に達していない。

<各分野の男女平等の実現度（全体）>



##### 男は仕事、女は家庭という考え方

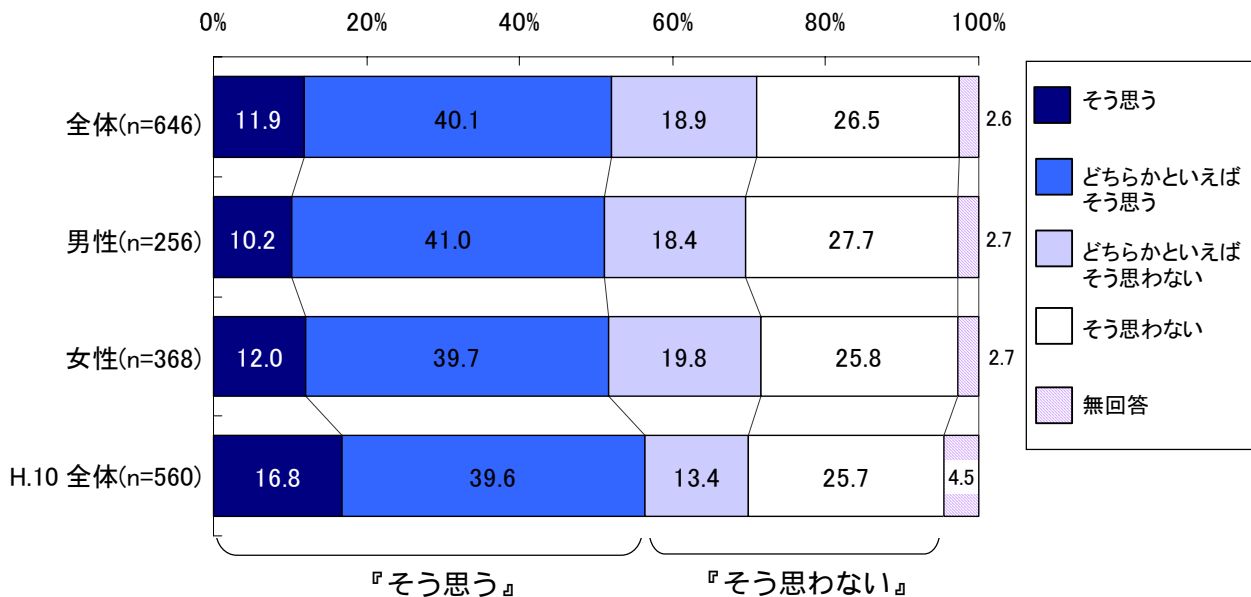
「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が34.5%、「まったくそうは思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』が32.5%となり、両者の数値に大きな差異はみられない。性別で見ると男性の『そう思う』は39.1%で、女性より7.8ポイント高くなっている。

## 2 家庭生活について

### 子育ては母親の仕事という考え方

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が 52.0%、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』が 45.4%となり、『そう思う』が 6.6 ポイント高くなっている。なお、性別による大きな差異はみられない。

<子育ては母親の仕事という考え方（全体・性別・平成 10 年調査比較）>



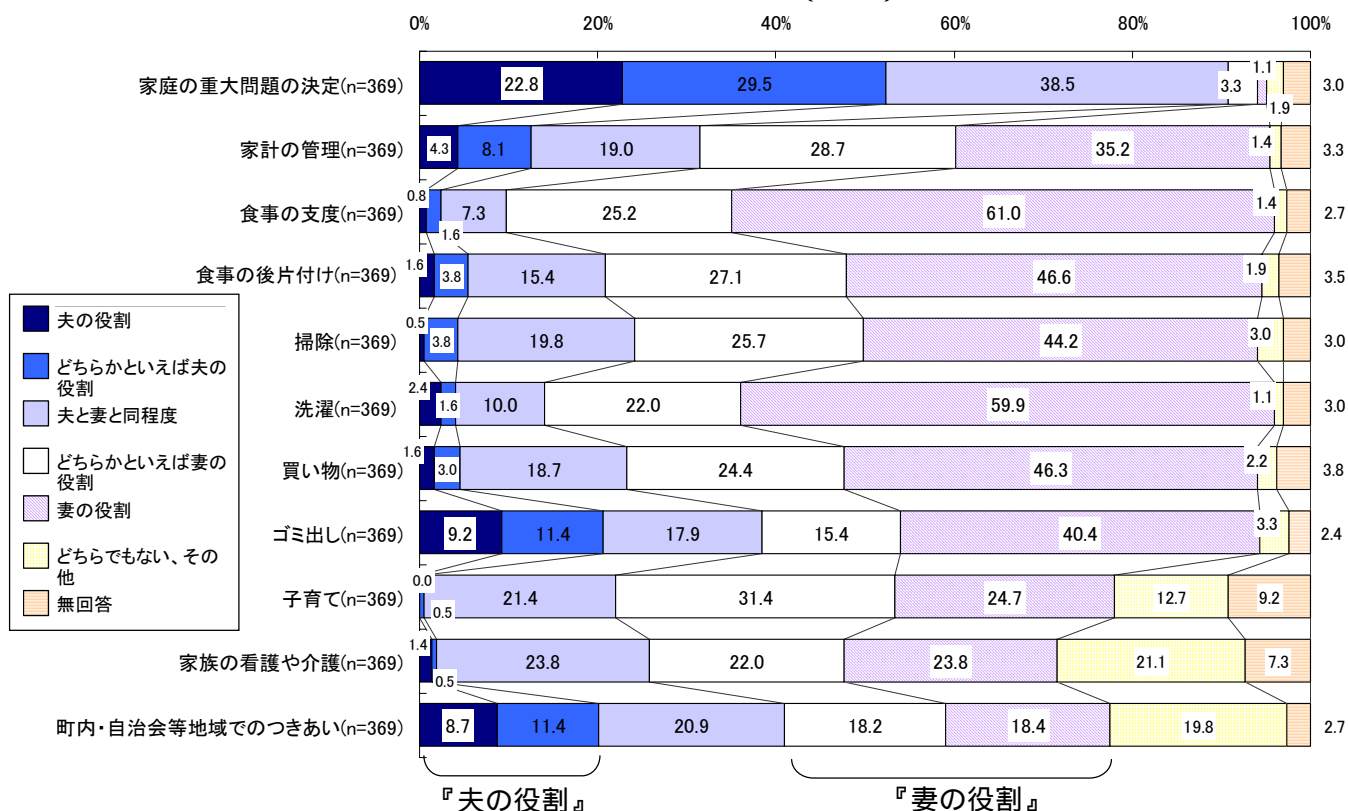
### 家事は女性の仕事という考え方

「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』が 52.0 %、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が 44.6%となり、『そう思わない』が 7.4 ポイント高くなっている。性別で見ると、男性は『そう思う』が 49.2%で『そう思わない』が 47.7%と、『そう思う』が若干高いが、女性は『そう思う』が 41.3%で『そう思わない』が 55.4%と、『そう思わない』が 14.1 ポイント高くなっている。

### 家庭生活での役割分担

結婚している人に、家庭生活における家事などの役割分担をどうしているかたずねた。「夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」を合わせた『夫の役割』の方が高かったのは「家庭の重大問題の決定」だけで、それ以外の項目はいずれも「妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」を合わせた『妻の役割』の方が高かった。

< 家庭生活での役割分担（全体） >

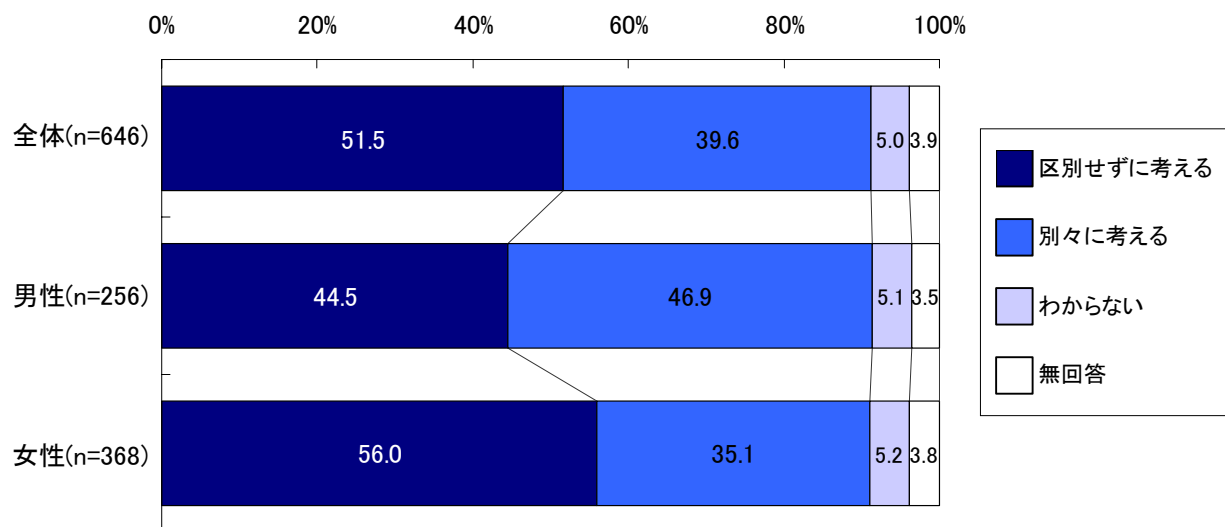


3 子どもの教育について

性別による子どもの育て方の区別

男女両方の子どもがいた場合、子どもの育て方について性別を区別せず、男の子と女の子を同じように育てるか、あるいは区別して育てるかをたずねたところ、「区別せずに考える」が 51.5%と最も高くなっている。

< 性別による子どもの育て方の区別（全体・性別） >



### 性別を区別しない場合の子育て方針

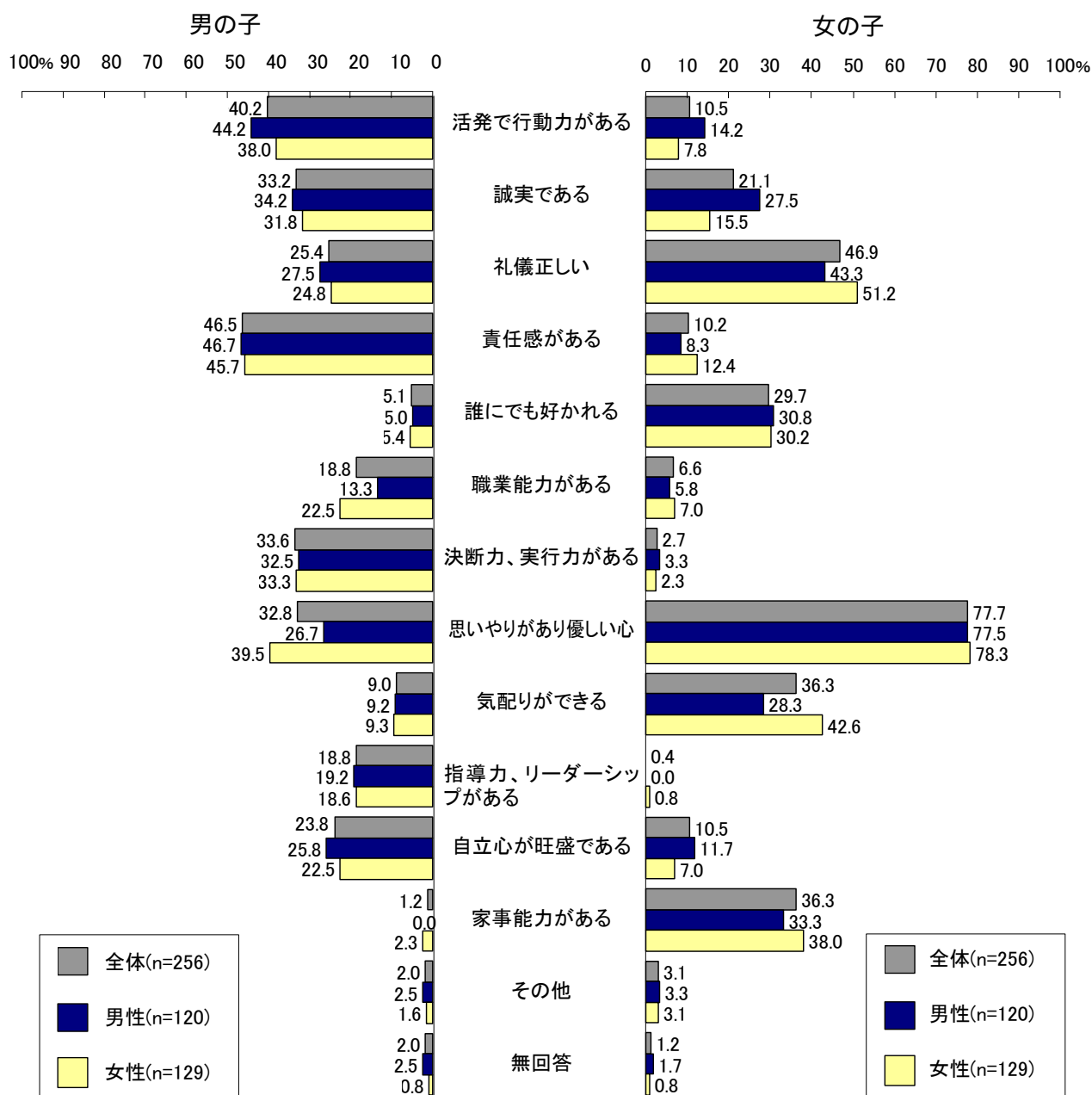
性別により子どもの育て方を区別しないとした人に、子どもをどのように育てたいかたずねた。「思いやりがあり優しい心」が63.4%と最も高く、「誠実である」(42.9%)、「責任感がある」(39.9%)と続いている。なお、性別による大きな差異はみられない。

### 性別を区別する場合の子育て方針

性別により子どもの育て方を区別するとした人に、子どもをどのように育てたいか、男の子・女の子それぞれの場合をたずねた。男の子の育て方については、「責任感がある」が46.5%と最も高く、「活発で行動力がある」(40.2%)、「決断力、実行力がある」(33.6%)と続いている。性別でみると、「思いやりがあり優しい心」が女性で39.5%と、男性より12.8ポイント高くなっている。

また、女の子の育て方については、「思いやりがあり優しい心」が77.7%と最も高く、「礼儀正しい」(46.9%)、「気配りができる」(36.3%)と続いている。性別でみると、「気配りができる」が女性で42.6%と、男性より14.3ポイント高くなっている。一方、「誠実である」が男性で27.5%と、女性より12.0ポイント高くなっている。

<性別を区別する場合の子育て方針・男の子の場合・女の子の場合(全体・性別)>



## 学校教育の場で力を入れるべきこと

男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場で力を入れるべきことは何かたずねた。「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」が64.9%と最も高く、「日常の活動の中で男女平等意識を育てる指導をする」(49.4%)、「相手の性を尊重するという考え方に基づく性教育の充実」(39.8%)と続いている。

性別により差があるものとしては、「男女共学の推進」が男性で41.4%と、女性より10.7ポイント高くなっている。一方、「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」が女性で70.1%と、男性より10.3ポイント高くなっている。

なお、前回調査と比較すると、大きな差異はなく、おおよそ同様の傾向となっている。

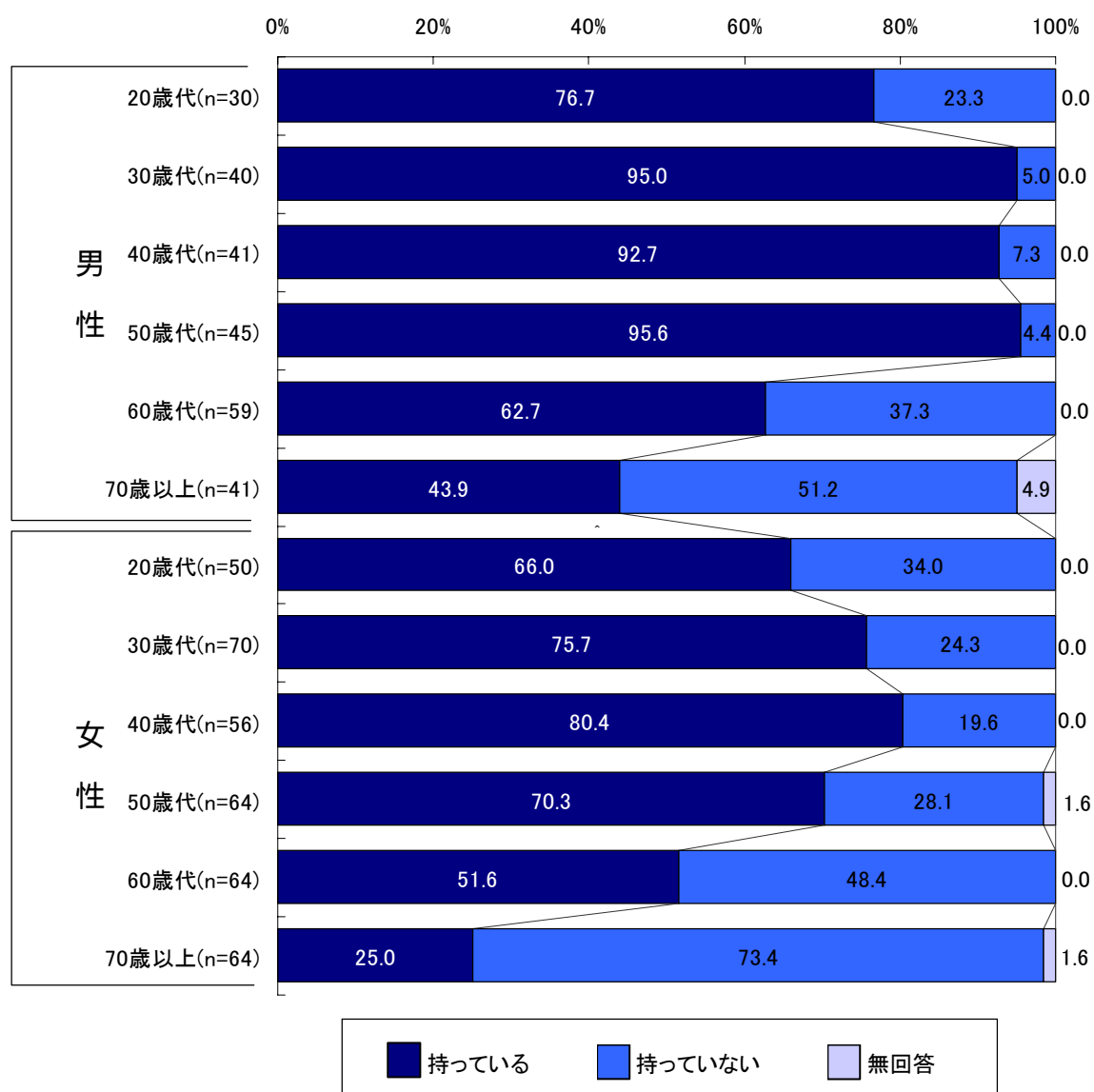
## 4 職業について

### 就労状況

「持っている」が67.0%と、全体の7割弱を占めている。性別で見ると、男性は、「持っている」が77.0%と、女性より15.9ポイント高くなっている。

なお、前回調査では、「持っている」が61.3%であり、今回は5.7ポイント増えている。

<就労状況(性年齢別)>

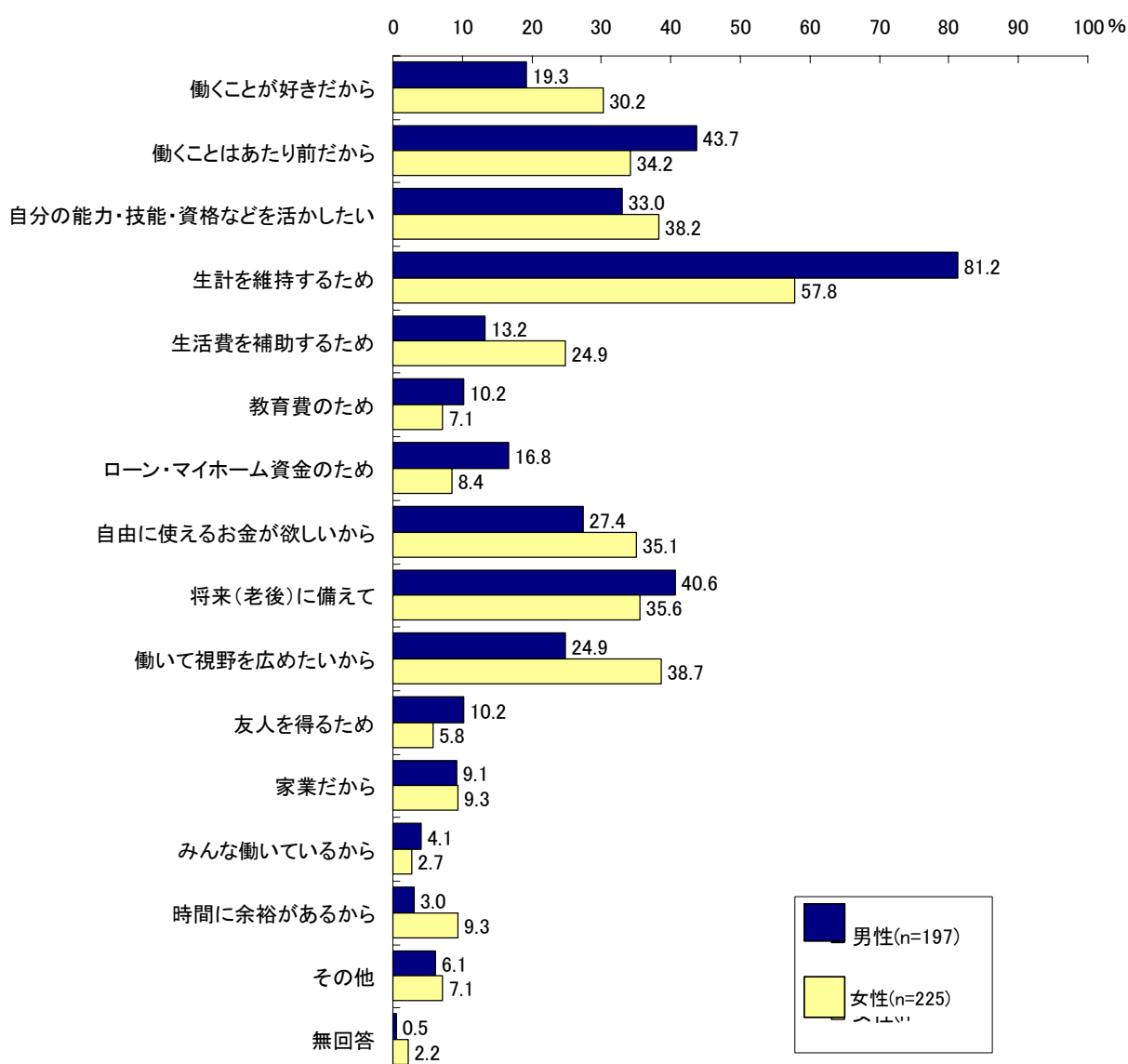


## 現在働いている理由や目的

職業を持っている人に、現在働いている理由や目的はどのようなことかたずねた。「生計を維持するため」が68.8%と最も高くなっている。続いて、「働くことはあたり前だから」(38.3%)、「将来(老後)に備えて」(37.4%)となっている。

性別による大きな差としては、「生計を維持するため」が男性で81.2%と、女性より23.4ポイント高くなっている。逆に、「働いて視野を広めたいから」が女性で38.7%と、男性より13.8ポイント高くなっている。

<現在働いている理由や目的(性別)>

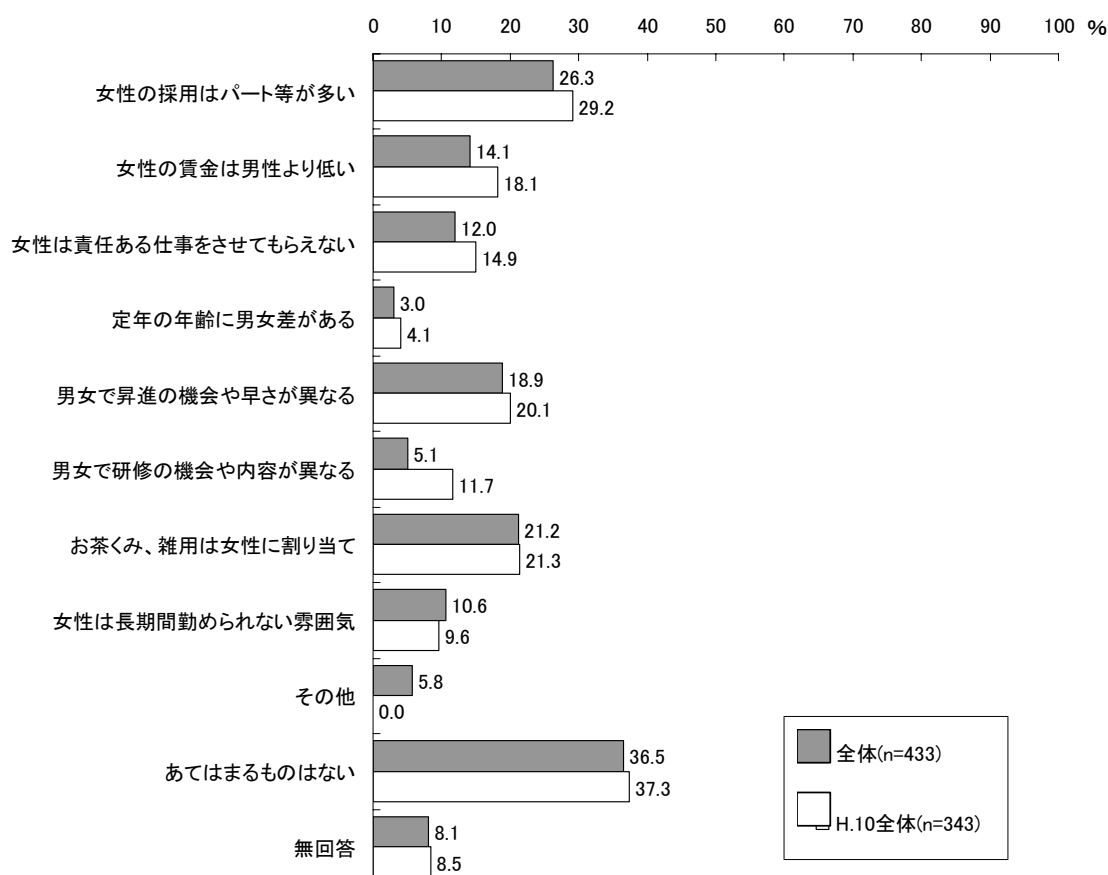


## 現在の職場に当てはまるもの

職場での女性の待遇について、現在の職場に当てはまるものがあるかたずねた。「当てはまるものはない」が 36.5%と最も高くなっている。続いて、「女性の採用は、パート・アルバイト・嘱託の形態が多い」(26.3%)、「お茶くみ、雑用は女性に割り当てられている」(21.2%)、「男女で昇進の機会や早さが異なる」(18.9%)となっている。

性別でみると、女性が高いものとして「同時期に入社して同じ仕事をして、女性の賃金は男性より低い」(18.7%)があり、男性より 9.1 ポイント高くなっている。

<現在の職場に当てはまるもの(全体・平成10年調査比較)>

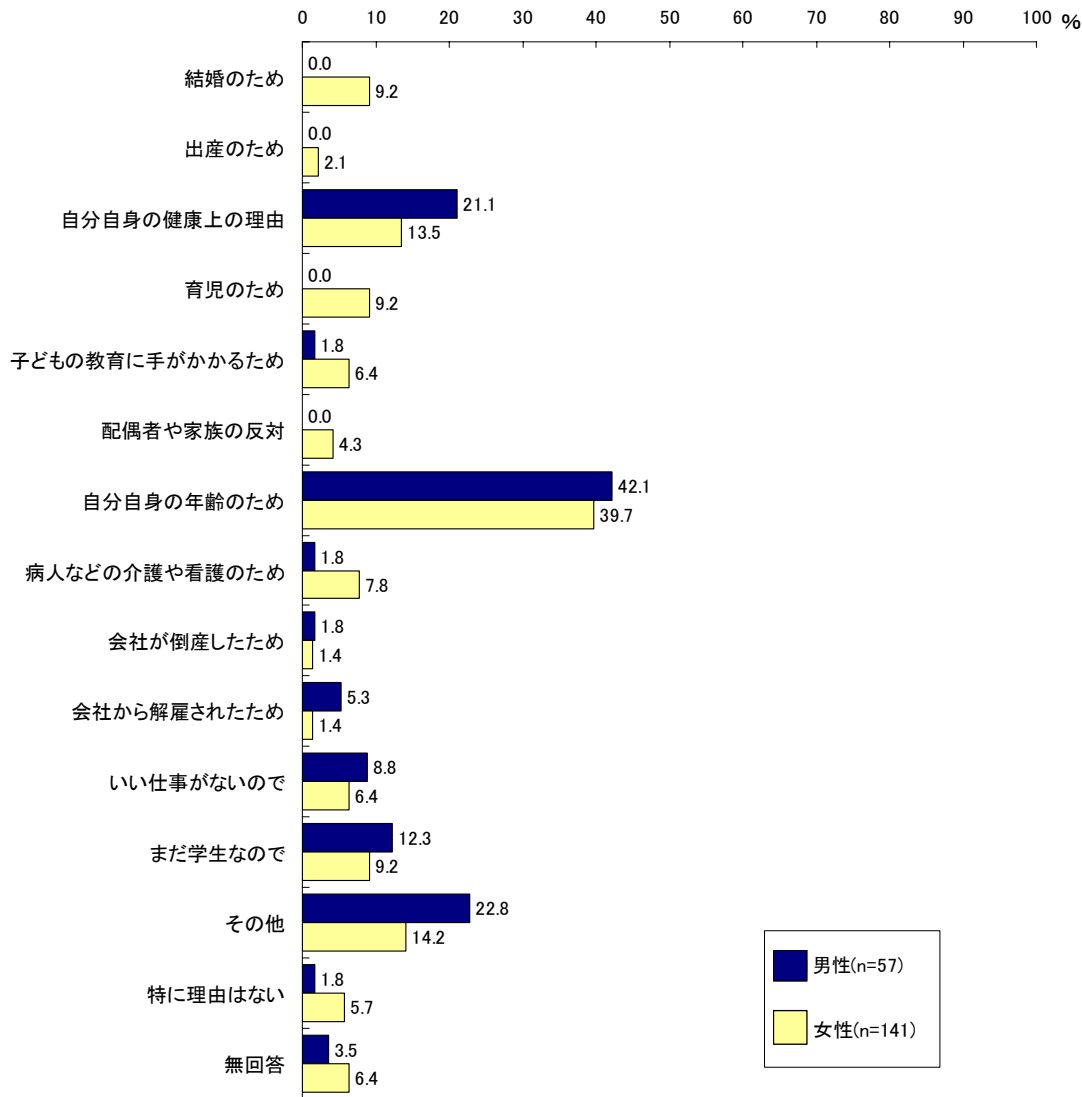


## 現在働いていない理由

職業を持っていない方に、現在働いていない理由をたずねた。「自分自身の年齢のため」が 41.1%と最も高くなっている。次いで、「自分自身の健康上の理由」(15.9%)、「その他」(15.9%)となっている。なお、前回調査と比べると、「いい仕事がないので」が今回若干減少したが、全体的に大きな差異はみられない。

性別でみると、男性が高いものとして「自分自身の健康上の理由」(21.1%)があり、女性より 7.6 ポイント高くなっている。一方、女性が高いものとしては「病人などの介護や看護のため」(7.8%)があり、男性より 6.0 ポイント高くなっている。

< 現在働いていない理由（性別） >



今後の就労意向

職業を持っていない方に、あなたは今後、働きたいと考えているかたずねたところ、「働きたいとは思わない」が 46.9%を占めている。性別で見ると、男性は「すぐにでも働きたい」が 21.1%と、女性より 13.3 ポイント高くなっている。なお、前回調査と、大きな差異はみられない。

希望する就労形態

現在働いていないが、働きたいと考えている人に、どのような形態で働きたいと思うかたずねた。「パート・アルバイト」が 39.8%と最も高く、「正社員(職員)」(36.1%)が続いている。性別で見ると、女性は「パート・アルバイト」が 43.9%と、男性より 13.1 ポイント高くなっている。

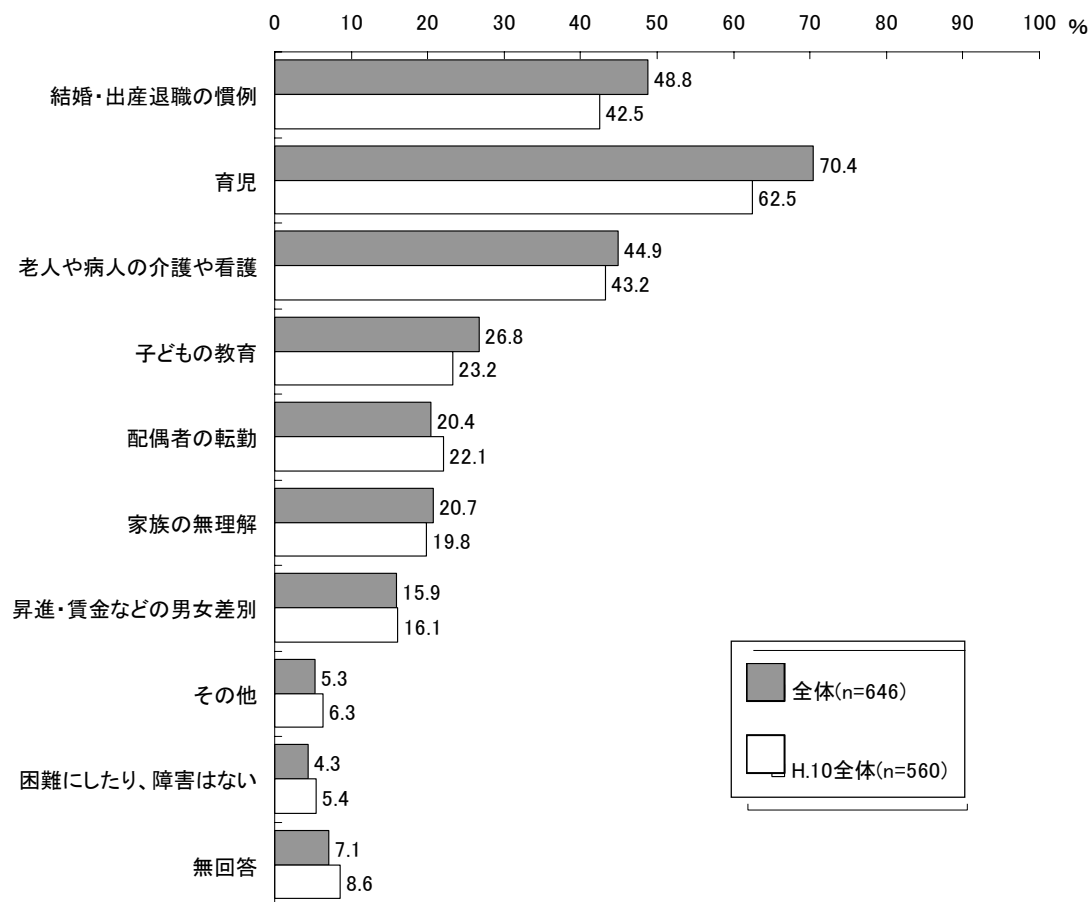
前回調査では、今回は「自分自身で事業を始める」が前回より 6.3 ポイント減少しているなど若干の変化はあるが、前回と大きな差異はみられない。

女性が働き続けるのに困難、障害となっていること

「育児」が 70.4%と最も高くなっている。次いで、「結婚・出産退職の慣例」(48.8%)、「老人や病人の介護や看護」(44.9%)となっている。

性別で見ると、女性が高いものとして「老人や病人の介護や看護」(53.3%)があり、男性より20.5ポイント高くなっている。一方、男性が高いものとして「結婚・出産退職の慣例」(57.8%)があり、女性より14.3ポイント高くなっている。

<女性が働き続けるのに困難、障害となっていること(全体・平成10年調査比較)>



望ましい女性の一生と職業の関わり方

「子育ての期間を除き職業を持つ」が49.2%と最も高くなっており、「子育ての期間を含めて一生職業を持つ」が24.6%で続いている。

<望ましい女性の一生と職業の関わり方(全体・性別・平成10年調査比較)>

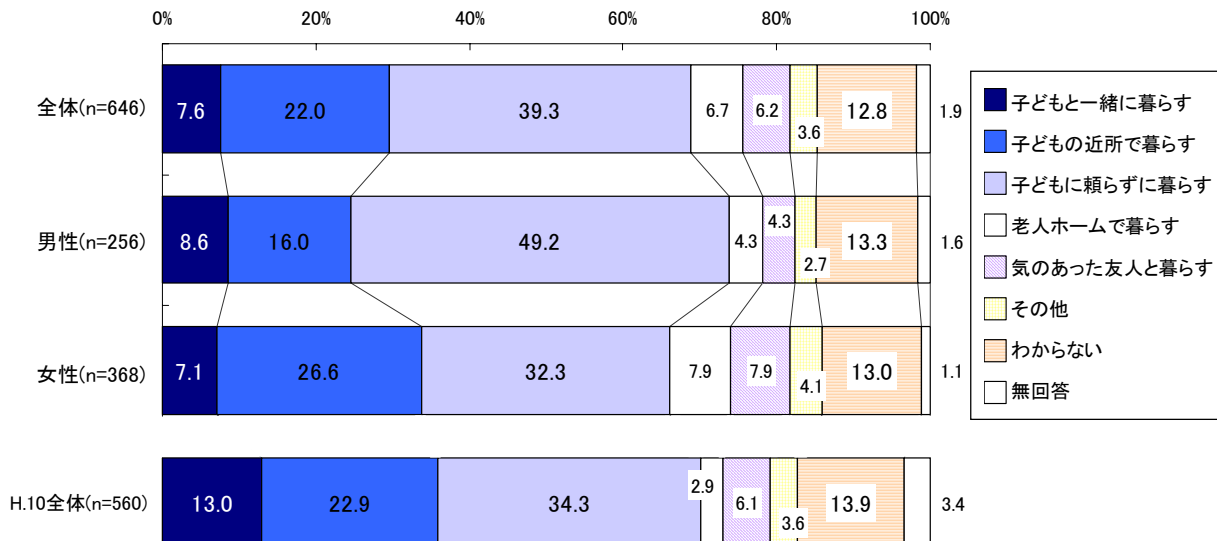


## 5 介護について

### 老後の暮らし方

「子どもに頼らずに暮らす」が 39.3%と最も高くなっている。性別で見ると、男性は、「子どもに頼らずに暮らす」が 49.2%で、女性より 16.9 ポイント高くなっている。一方、女性は、「子どもの近所で暮らす」が 26.6%で、男性より 10.6 ポイント高くなっている。

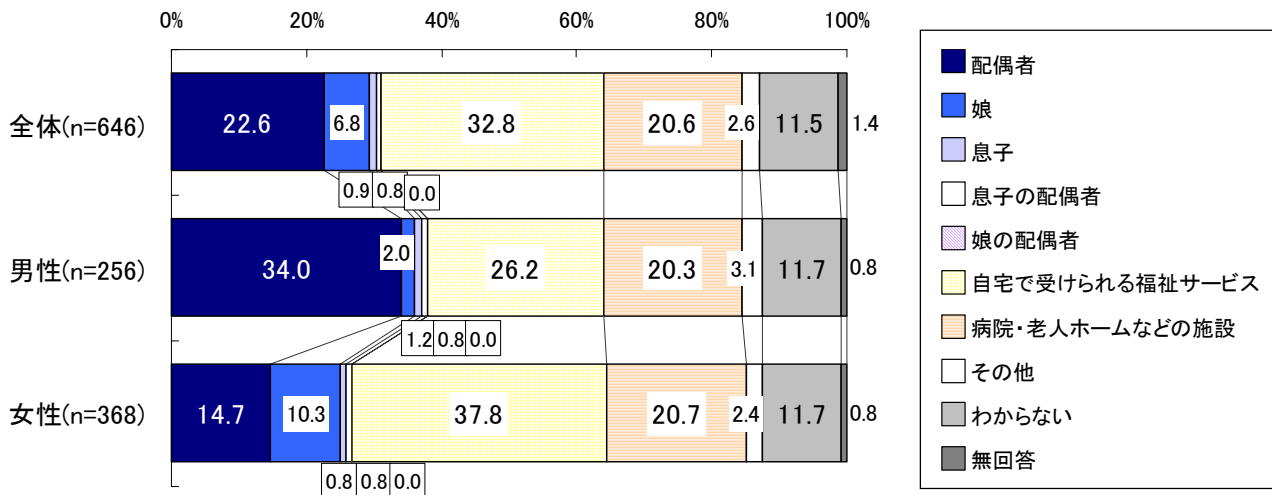
<老後の暮らし方（全体・性別・平成 10 年調査比較）>



### 介護が必要になった時の介護希望者

「自宅で受けられる福祉サービス」が 32.8%と最も高く、「配偶者」(22.6%)、「病院・老人ホームなどの施設」(20.6%)が続いている。性別で見ると、男性は、「配偶者」が 34.0%と、女性より 19.3 ポイント高くなっている。一方、女性は「病院・老人ホームなどの施設」が 37.8%と、男性より 11.6 ポイント高くなっている。

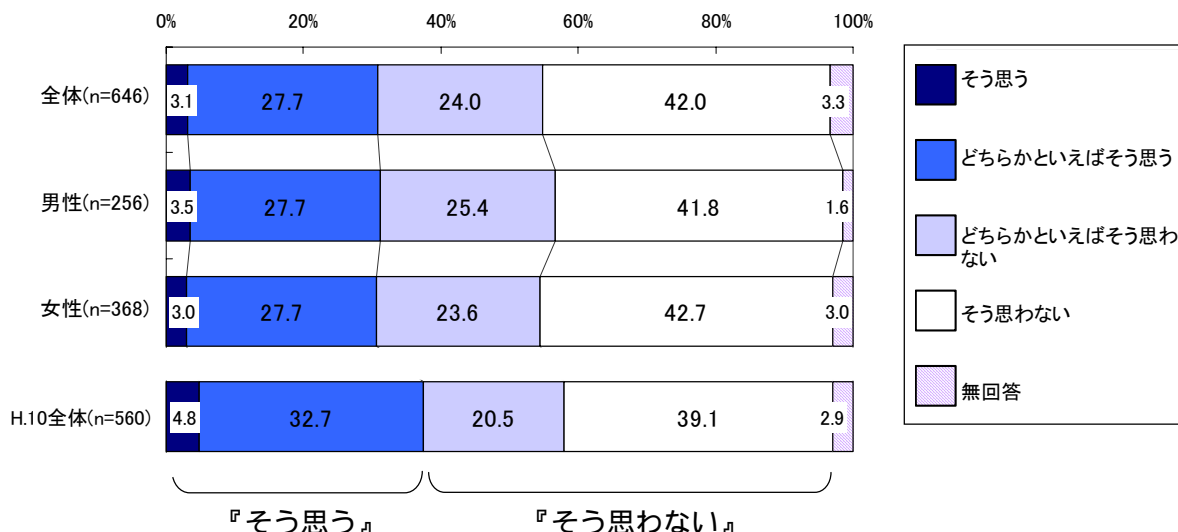
<介護が必要になった時の介護希望者（全体・性別）>



### 家庭での介護や看護は女性の役割という考え方

「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』が 66.0%、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が 30.8%と、『そう思わない』が 35.2 ポイント高くなっている。前回調査では、『そう思わない』が 59.6%で『そう思う』が 37.5%であり、今回『そう思う』が 6.7 ポイント減っている。なお、性別による大きな差異はみられない。

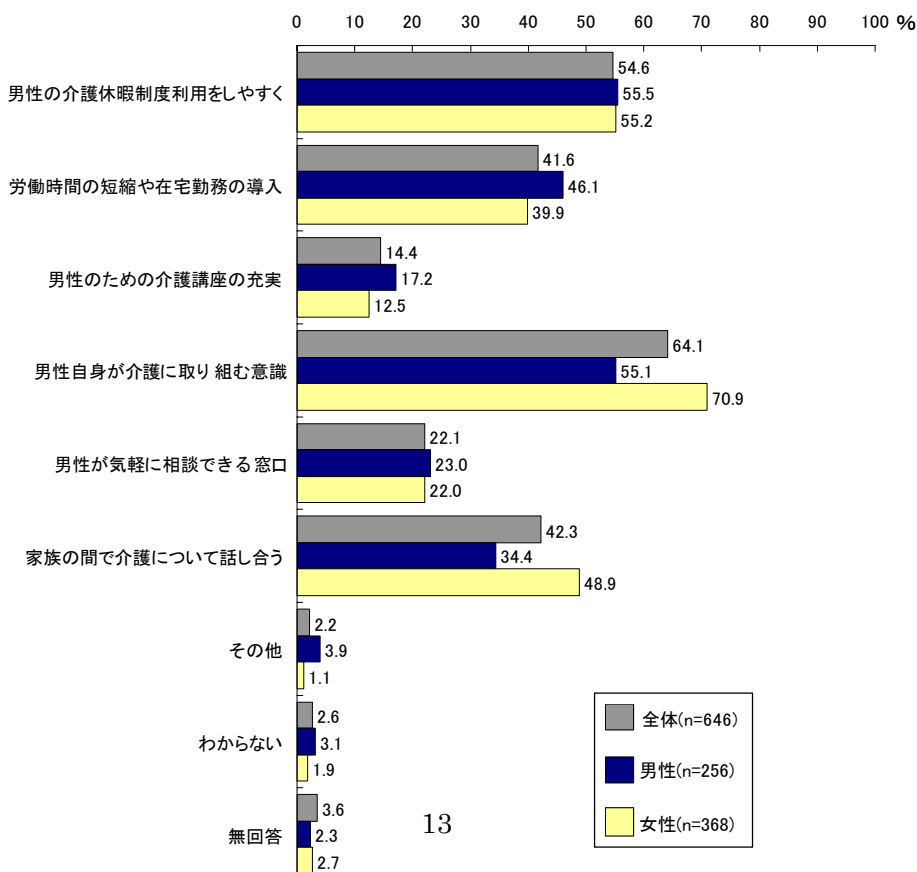
< 家庭での介護や看護は女性の役割という考え方（全体・性別・平成 10 年調査比較） >



### 今後の男性の介護参加に必要なこと

「男性自身が介護に取り組む意識を持つこと」が 64.1%と最も高くなっている。性別で見ると、「男性自身が介護に取り組む意識を持つこと」が女性で 70.9%と、男性より 15.8 ポイント高くなっている。一方、「労働時間の短縮や在宅勤務などの導入がすすむこと」が男性で 46.1%と、女性より 6.1 ポイント高くなっている。

< 今後の男性の介護参加に必要なこと（全体・性別） >



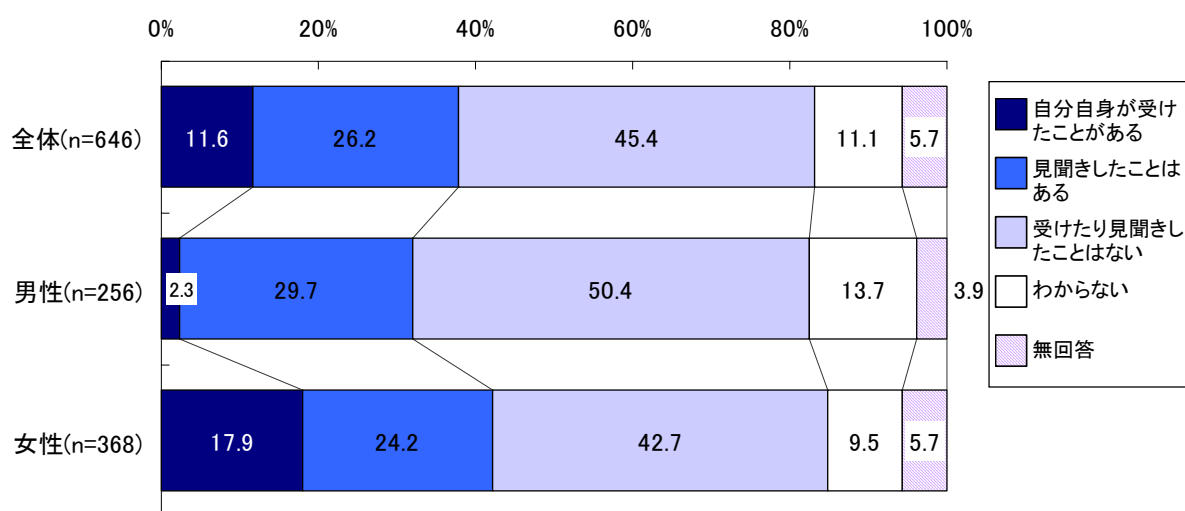
## 6 人権について

### セクシュアル・ハラスメントの被害

身近なところ(学校・職場・地域)でセクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)を見たり聞いたり、あるいは自分自身が受けたことはあるかたずねた。「受けたり見聞きしたことはない」が45.4%を占め、「見聞きしたことはある」(26.2%)が続いている。「自分自身が受けたことがある」は11.6%となっている。

性別でみると、女性は、「自分自身が受けたことがある」が17.9%と、男性より15.6ポイント高くなっている。

<セクシュアル・ハラスメントの被害(全体・性別)>

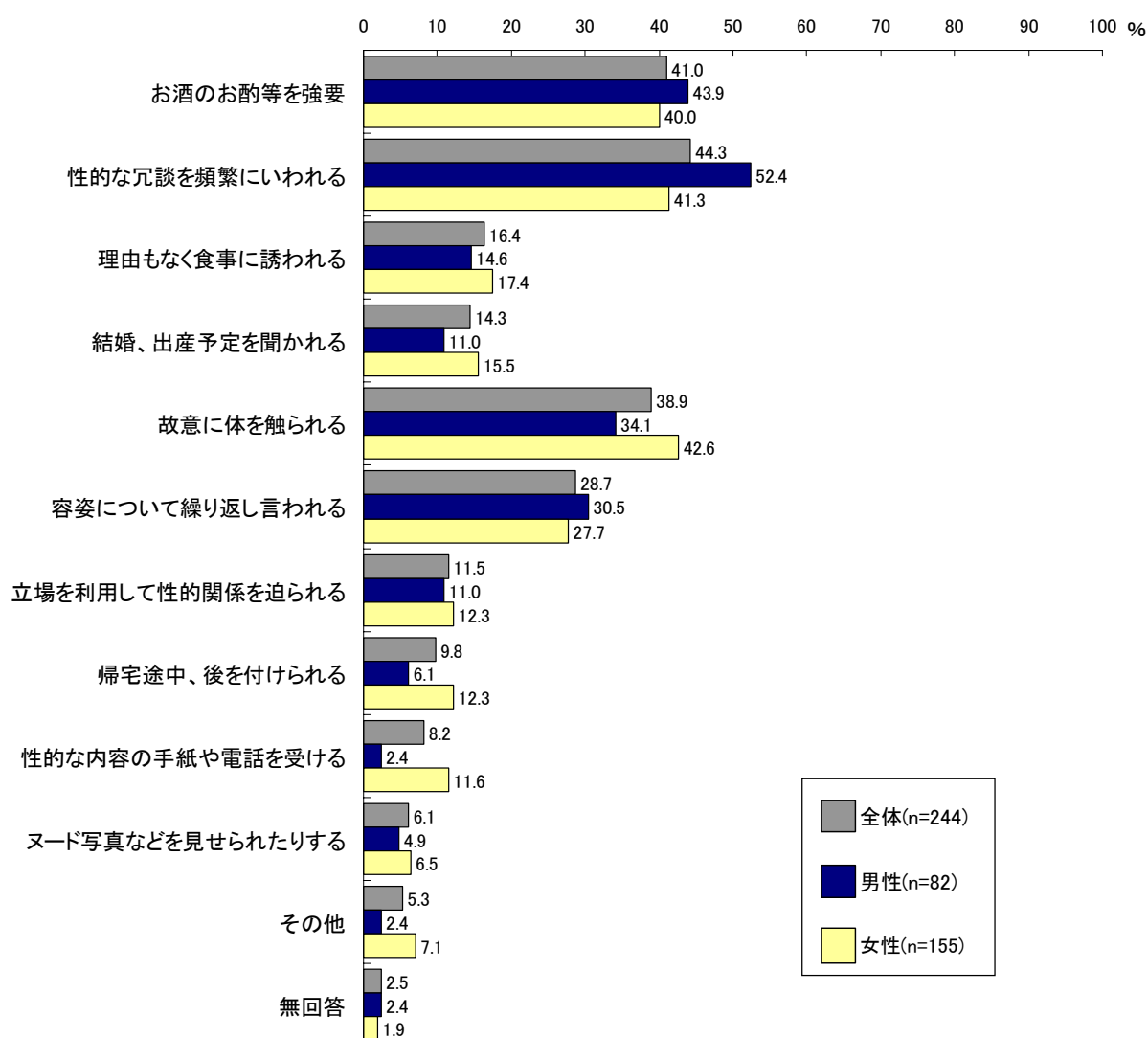


## セクシュアル・ハラスメントの被害の内容

セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたこと、見聞きしたことがある人に、それはどのようなものかたずねた。「性的な冗談を頻繁にいわれる」が44.3%で最も高く、「宴会でお酒のお酌やカラオケのデュエットを強要される」(41.0%)、「故意に体を触られる」(38.9%)と続いている。

性別により差があるものとしては、「性的な冗談を頻繁にいわれる」が男性で52.4%と女性より11.1ポイント高くなっている。一方、「性的な内容の手紙や電話を受ける」が女性で11.6%と男性より9.2ポイント高くなっている。

<セクシュアル・ハラスメントの被害の内容(全体・性別)>

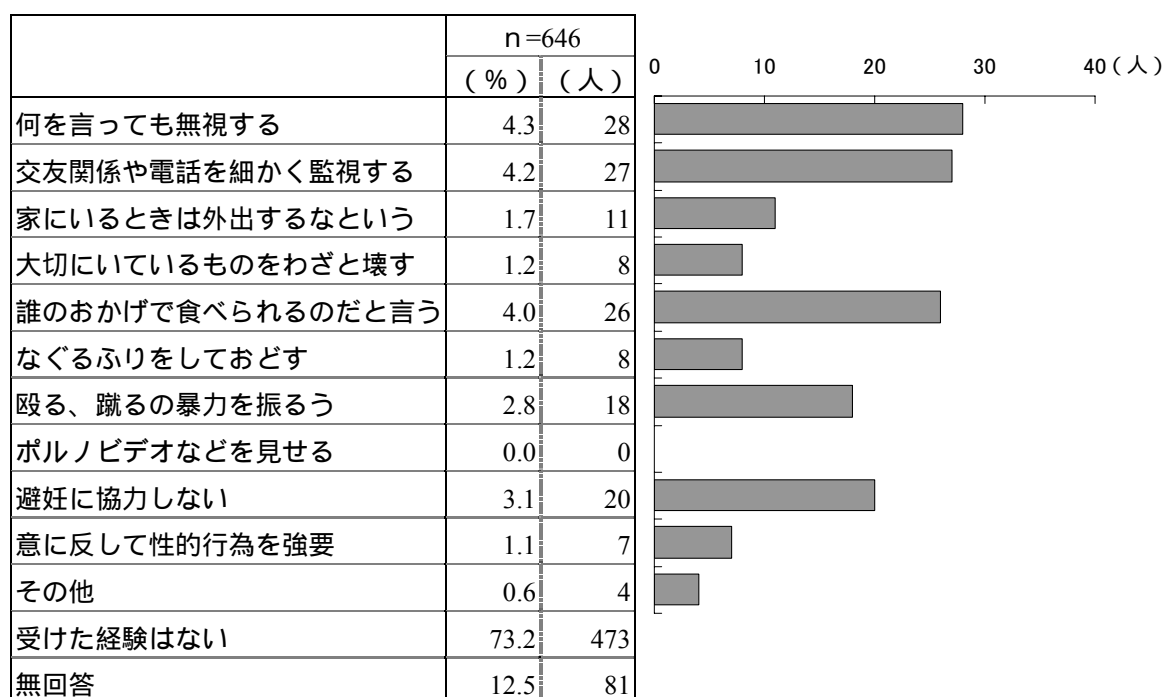


### 配偶者やパートナーから受けた経験のある暴力行為

配偶者やパートナーから受けた経験があるか、またそれはどのような行為かたずねた。「受けた経験はない」が 73.2%となっている。前回調査では、「この中で受けた経験のあるものはない」は 66.1%であったが、今回「受けた経験はない」は 73.2%と、7.1 ポイント増えている。

なお、暴力行為を受けた人の割合は、14.2%(92 人)となっている。

#### < 配偶者やパートナーから受けた経験のある暴力行為 (全体) >



### 受けた経験について相談の有無

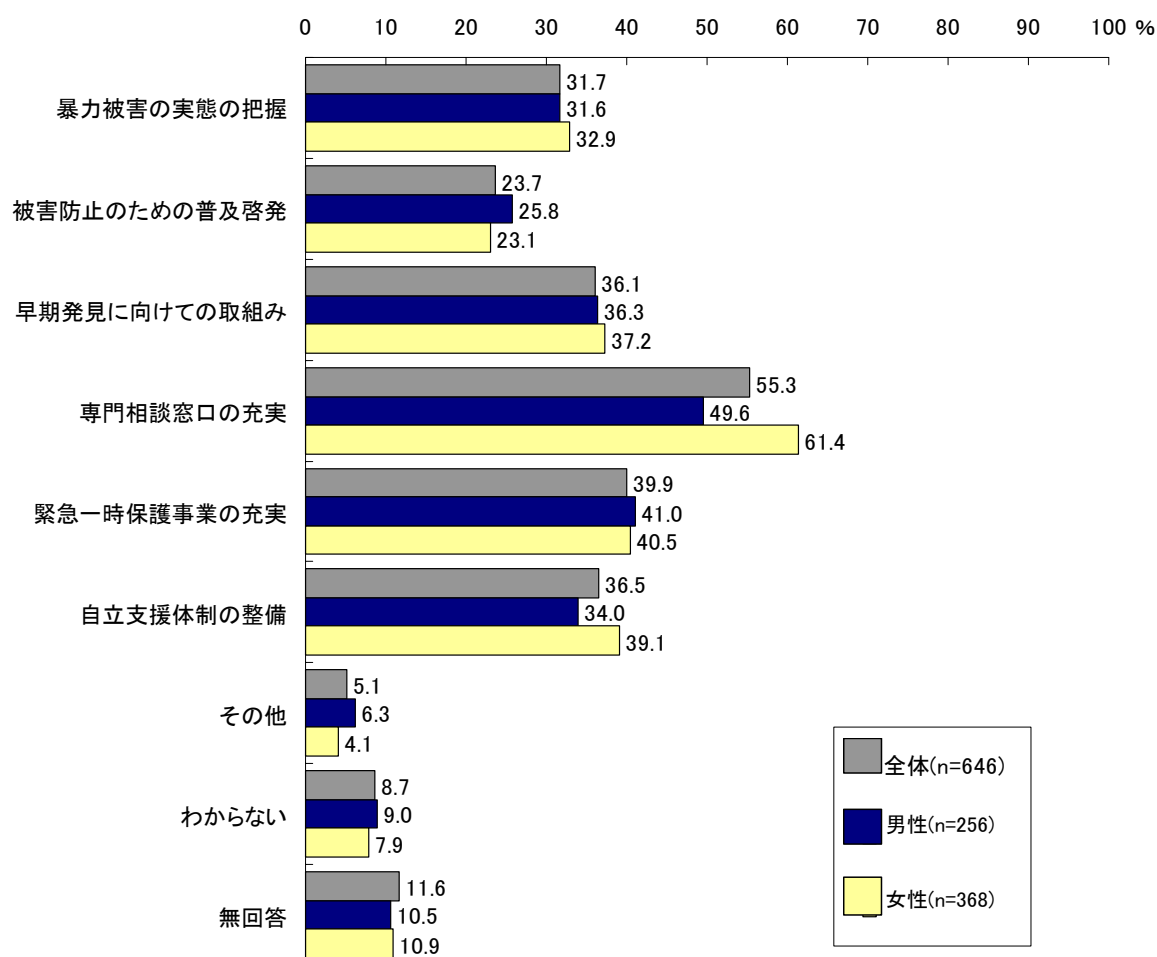
暴力行為を受けた経験がある人に、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしたかたずねた。「相談しようとは思わなかった」が 51.1%と、5 割強を占めた。「相談した」( 29.3% ) も 3 割弱を占めている。性別で見ると、男性は、「相談しようとは思わなかった」が 76.0%と、女性より 33.1 ポイント高くなっている。一方、女性は、「相談した」が 33.3%と男性より 17.3 ポイント高くなっている。なお、相談した相手は誰かたずねたところ、「親類・友人・知人」が 96.3%で最も高くなっている。

配偶者やパートナーからの暴力をなくすために大切なこと

「専門相談窓口の充実」が 55.3%と最も高くなっている。続いて、「緊急一時保護事業の充実」(39.9%)、「自立支援体制の整備」(36.5%)、「早期発見に向けての取組み」(36.1%)となっている。

性別により差があるものとしては、「専門相談窓口の充実」が女性で 61.4%と、男性より 11.8 ポイント高くなっている。

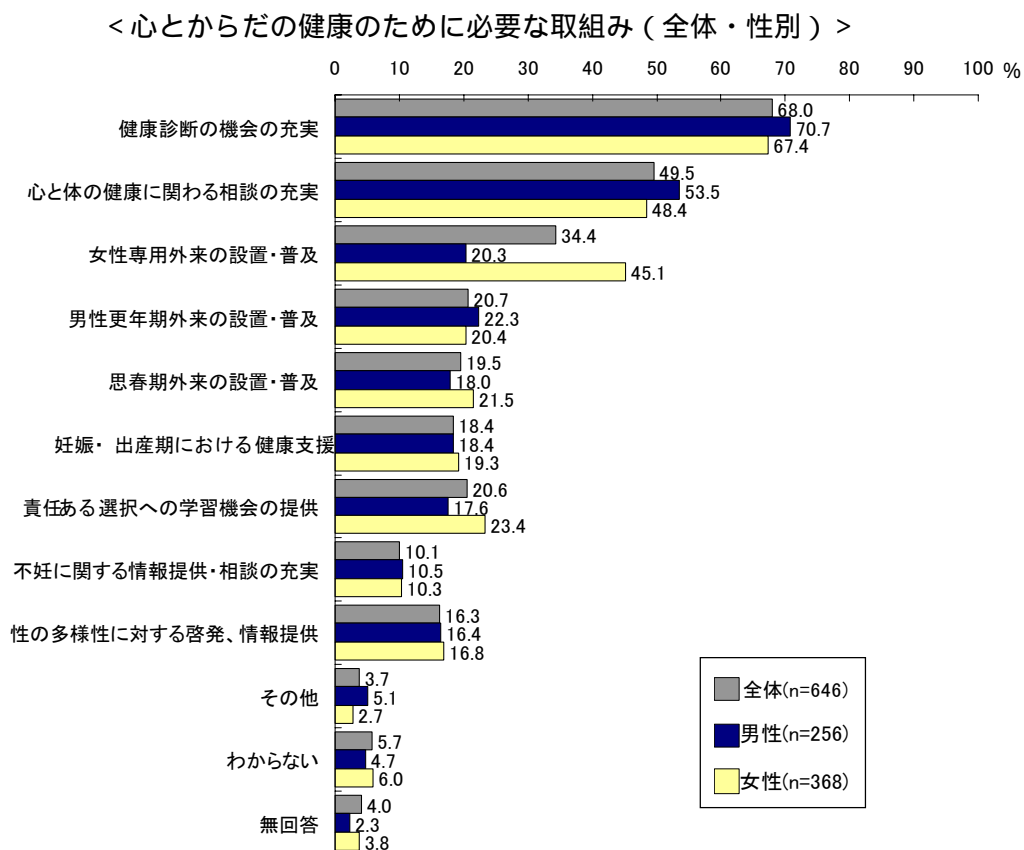
< 配偶者やパートナーからの暴力をなくすために大切なこと (全体・性別) >



## 心とからだの健康のために必要な取組み

「健康診断の機会の充実」が 68.0%と最も高くなっている。続いて、「心とからだの健康にかかわる相談の充実」(49.5%)、「女性専用外来の設置・普及」(34.4%)となっている。

性別により差があるものとしては、「女性専用外来の設置・普及」が女性で 45.1%と、男性より 24.8 ポイント高くなっている。



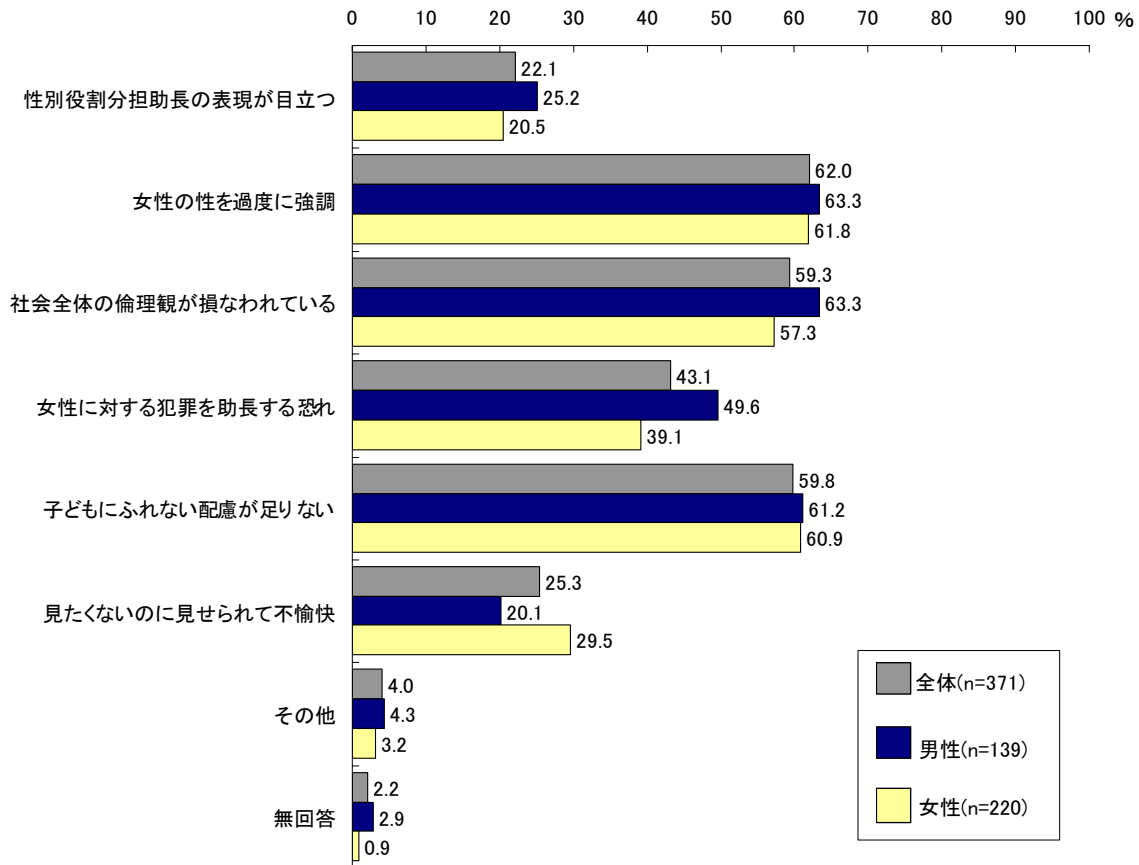
## メディアでの固定的な性別役割分担や過剰な表現を感じること

「非常に感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた『感じる』が 57.4%、「ほとんど感じない」と「どちらかというと感じない」を合わせた『感じない』が 26.8%と、『感じる』が 30.6 ポイント高くなっている。性別で見ると、男性は『感じる』が 54.3%で『感じない』が 35.1%、女性は『感じる』が 59.8%で『感じない』が 21.8%と、男性の『感じない』は女性より 13.3 ポイント高くなっている。

## メディアの過剰な表現を感じる点

メディアでの固定的な性別役割分担や過剰な表現を感じる人に、どのような点で感じるのかたずねた。「女性の性を過度に強調するなど、いき過ぎた表現が目立つ」が 62.0%と最も高い。性別により差があるものとしては、「女性に対する犯罪を助長する恐れを感じる」が男性で 49.6%と、女性より 10.5 ポイント高くなっている。一方、「見たくないのに見せられて不愉快」が女性で 29.5%と、男性より 9.4 ポイント高くなっている。

<メディアの過剰な表現を感じる点(全体・性別)>

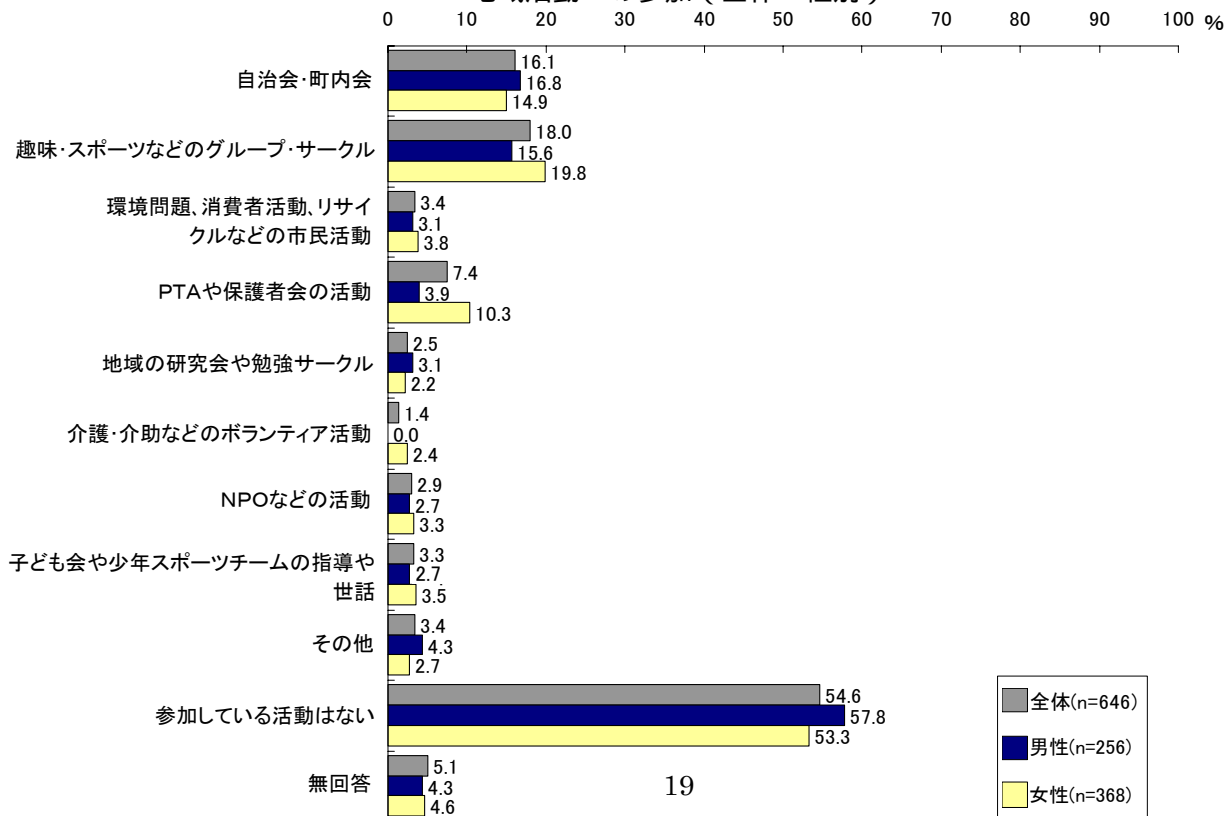


7 地域活動について

地域活動への参加

参加している活動としては、「趣味・スポーツなどのグループ・サークル」(18.0%)、「自治会・町内会」(16.1%)が高くなっている。前回調査と、全体的に大きな差異はみられない。

<地域活動への参加(全体・性別)>



## 男性の地域参加や家庭生活へのかかわりをするために必要なこと

「男性の意識改革」が32.7%と最も高くなっている。続いて、「社会通念や慣習の改善」(19.0%)、「労働環境の改善」(18.9%)となっている。性別で見ると、男性は、「労働環境の改善」が27.3%と女性より13.2ポイント高くなっている。一方、女性は、「家庭(妻・親・子ども)の働きかけ」が8.2%と男性より5.9ポイント高くなっている。なお、前回調査と、大きな差異はみられない。

## 8 女性の政策決定への参加などシステム変革について

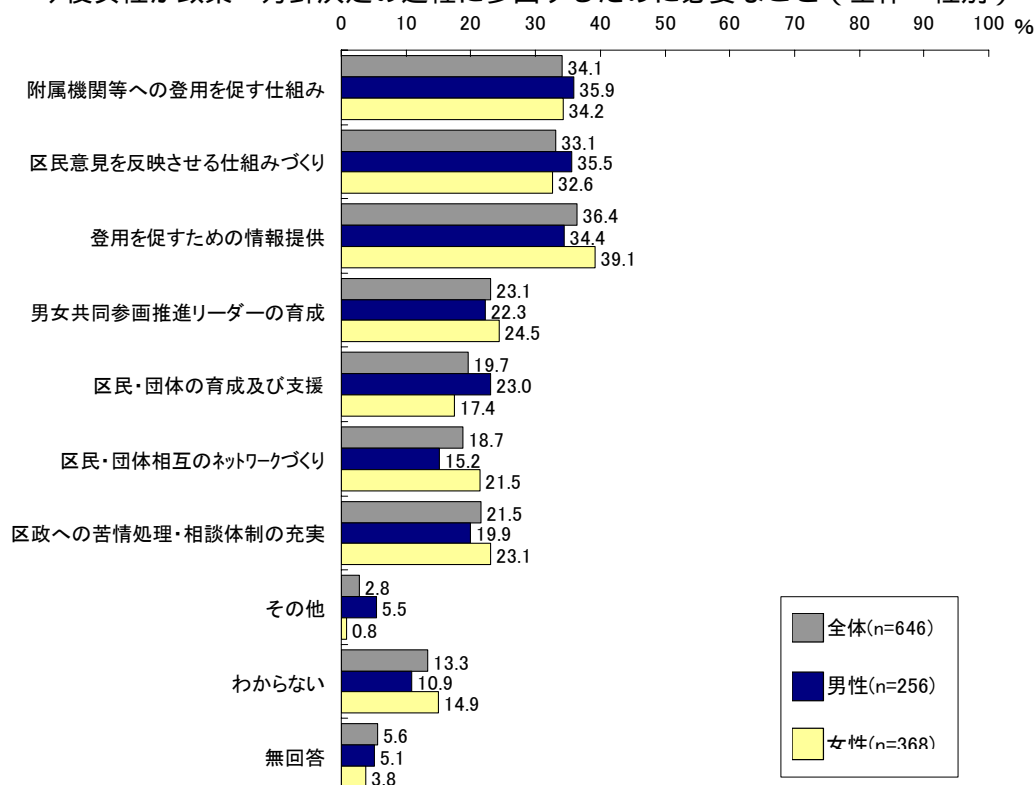
### 政策・方針決定への女性参画が少ない理由

「社会のシステムや慣習が女性の適切な人材を育てたり、登用するようになっていないから」が56.0%と最も高くなっている。前回調査と比較すると、今回は「社会のシステムや慣習が女性の適切な人材を育てたり、登用するようになっていないから」が12.0ポイント減少し、「女性自身がそういうことをしたがないから」が5.1ポイント増加している。

### 今後女性が政策・方針決定の過程に参画するために必要なこと

「政策・方針決定過程に専門知識を持った女性の登用を促すための情報提供」が36.4%、「附属機関・審議会等への女性の登用を促す仕組みづくり」が34.1%、「区民の意見を把握し、区政に反映させるための仕組みづくり」が33.1%と、35%前後の3つが高くなっている。

< 今後女性が政策・方針決定の過程に参画するために必要なこと (全体・性別) >

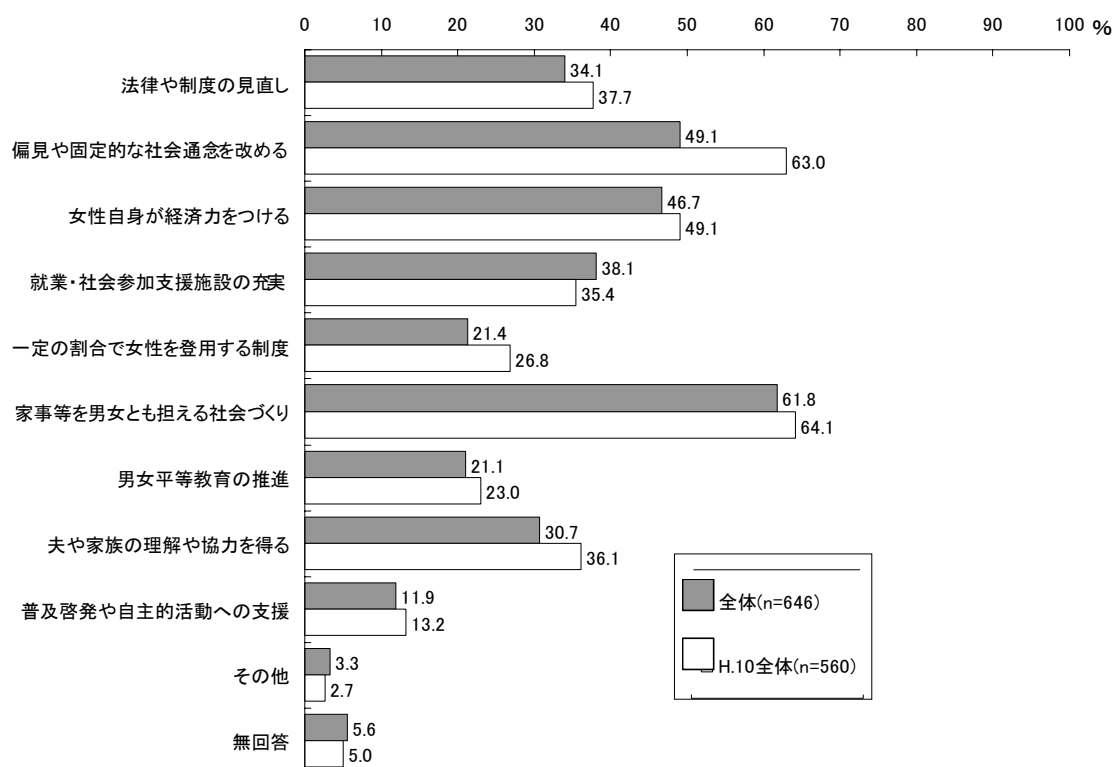


## 男女共同参画社会実現のために大切なこと

「家事や育児、高齢者・病人の介護や看護を、男女とも担える社会づくりを進めること」が61.8%と最も高くなっている。前回調査では「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」が63.0%であったが、今回は13.9ポイント減少している。

性別により差があるものとしては、「家事や育児、高齢者・病人の介護や看護を、男女とも担える社会づくりを進めること」が女性で70.4%と、男性より19.2ポイント高くなっている。

<男女共同参画社会実現のために大切なこと（全体・平成10年調査比較）>



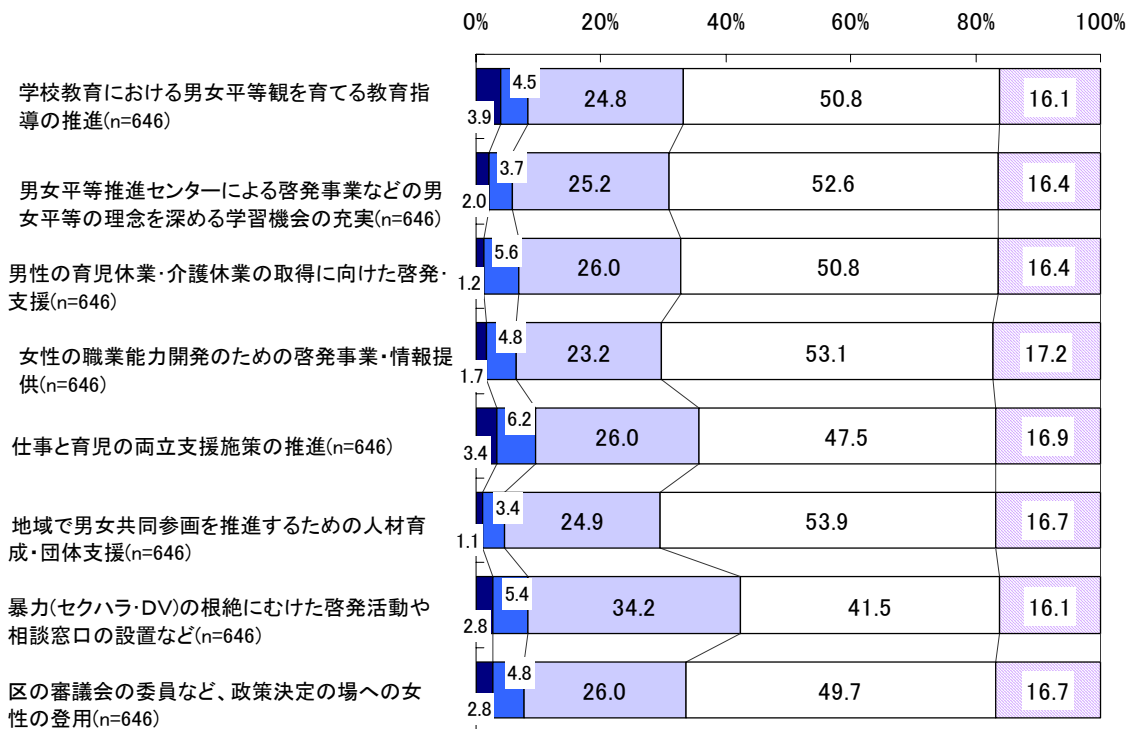
## 9 区の施策の評価について

### 区の男女共同参画事業の認知度と評価

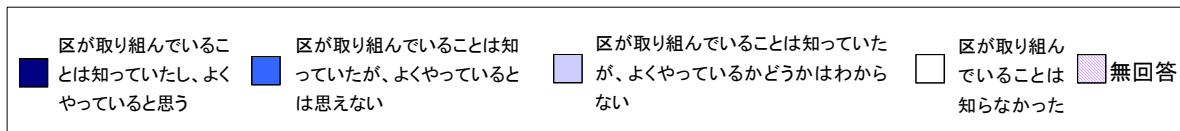
8つの事業を区が取り組んでいることを知っているか、また知っていた場合よくやっていると思うかたずねたところ、どの事業においても「区が取り組んでいることは知らなかった」が5割前後を占め、最も高くなっている。

「区が取り組んでいることは知っていたし、よくやっていると思う」・「区が取り組んでいることは知っていたが、よくやっているとは思えない」・「区が取り組んでいることは知っていたが、よくやっているかどうかはわからない」を合わせたものを『知っている』とすると、「暴力(セクハラ・DV)の根絶にむけた啓発活動や相談窓口の設置など」で42.4%と最も高くなっている。

< 区の男女共同参画事業の認知度と評価 (全体) >



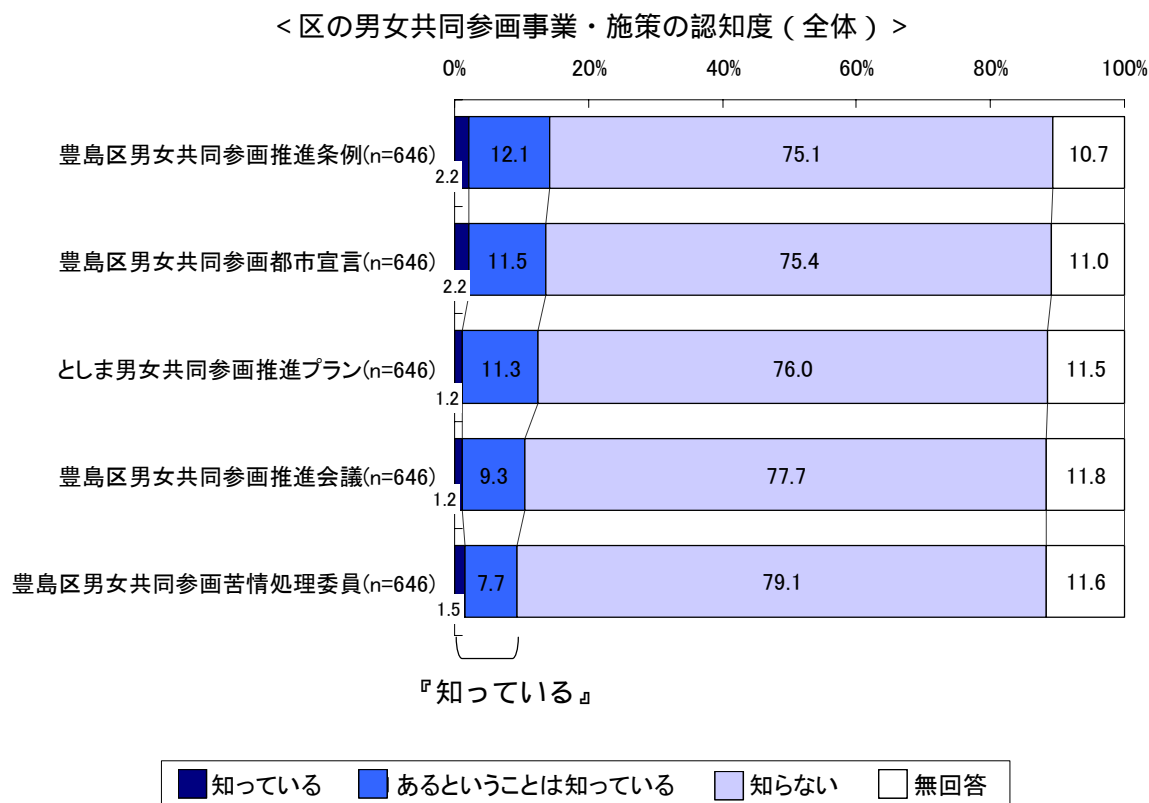
『知っている』



## 区の男女共同参画事業・施策の認知度

どの事業においても「知らない」が75～80%を占め、最も高くなっている。

「知っている」・「あるということは知っている」を合わせたものを『知っている』とすると、最も高いのは「豊島区男女共同参画推進条例」で14.3%、最も低いのは「豊島区男女共同参画苦情処理委員」で9.2%となっている。



## エポック 10 の利用・認知状況

「男女平等推進センター(エポック 10)」を利用したことがあるか、知っていたかたずねたところ、「利用したことがある」・「利用したことはないが知っている」・「あるということは知っている」を合わせた『知っている』が、19.2%を占めている。また、エポック 10 を知ったきっかけをたずねたところ、「区の広報で」が64.5%と最も高くなっている。続いて、「区役所、区の施設で」(26.6%)、「友人・知人から」(13.7%)となっている。なお、前回調査では、『知っている』が25.2%であり、今回『知っている』は6.0ポイント減っている。

**男女共同参画社会に関する住民意識調査  
概要版**

平成 17 年 11 月

**発 行** 豊島区立男女平等センター  
(エポック 10)  
豊島区西池袋 2 - 37 - 4  
電話 03 (5952) 9501